令和6年度 第3回ボートパーク指定管理者選考委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年10月23日（水）13時30分から15時まで
- 2 場 所 横須賀市役所3号館3階302会議室
- 3 出席委員 近藤委員長、工藤委員、石田委員、板戸委員、高橋委員
- 4 事務局 港湾部港湾管理課 大坪係長、佐々木
- 5 傍聴者 3名
- 6 議事内容

始めに委員長から本委員会の進行について、応募団体から提出された事業計画書及び第2回委員会で実施したプレゼンテーションを基に評価について意見交換を行い、採点の後に結果発表を行う旨を説明があった。次に傍聴者に対して、傍聴者は会議中に発言はできないことと、評価は事業計画書に記載されたものを対象に行われるもので第2回の委員会で行われたプレゼンテーションは事業計画書を補足するものの位置付けであることの話があった。

その後、委員長の指示により、各委員による意見交換が行われた。（＜意見交換の概要＞参照。）

各評価項目の意見交換を終えた後に続けて採点を行い、集計の結果、Maris&KMBP 共同事業体（以下「団体」）885点となり、最低基準点を満たした団体が選考団体となった。

最後に、委員長から総評があり、委員会が終了した。（＜総評の概要＞参照。）

<意見交換の概要>

「1 法令遵守」

（委員）

最初の項目の法令遵守については、指定管理者として当該施設の管理において、関連する法令を遵守するとともに、条例に即した対応をしていると確認した。個人情報の管理についても情報公開制度の適正な運用が確保されていると判断した。紙及びインターネット上での個人情報の管理についても法令違反はないと判断した。

「2 施設管理」

（委員）

施設管理について、シービンを設置してマイクロプラスチック回収のための努力をしている点は感心し、回収したマイクロプラスチックをどのように処理しているのか、実際の管理についてももう少しまとめてほしい。

（委員）

海の駅に関する記述について、ビジター艇の受入には、場所を明記するだけでなくボー

トパーク周辺の魅力についての記述があれば良いと思った。

(委員)

横須賀市が海の駅の登録をしているのか。

(事務局)

現指定管理者の提案で、深浦ボートパークが「よこすか・ふかうら海の駅」という名称で現指定管理者が登録している。

「3 利用者への配慮」

(委員)

市民をはじめ関係団体との積極的な情報交換や意見交換を推奨し、連携を通して様々なクレームやトラブルに対応していく姿勢を具体的に明示しているのは大変評価できる。

(委員)

クレームやトラブルへの対応については、経験もあり、具体的な記述となっているように感じる。

(委員)

快適さを保つためのイルミネーション装飾など、地元で好かれるよう工夫がみられる。

(委員)

近隣に住宅もあることから、イルミネーションに関してはクレームもあるかもしれないが、地域の振興のためには良い取組だと考える。

「4 リスクへの対応」

(委員)

リスクとは、組織にとってのリスクと係留者にとってのリスクがある。いずれにしてもスタッフの教育という部分が重要であり、経験もあるのでその点も問題ないと判断した。施設の定期的な点検や日頃のメンテナンスが重要だが、これにはコストがかかるため、年間の管理費の中でどのように対応するかが経営上の重要な課題となると思う。

「5 障害者及び男女共同参画への配慮」

(委員)

障害者及び男女共同参画及び多様な性への配慮については、直接的な対応ではないが、間接的に物品を障害者等の団体から購入及び支援を行うという姿勢が読み取ることができた。

(委員)

障害者及び男女共同参画及び多様な性への配慮については、障害者施設との連携やワークライフバランスへの積極的な取組、従業員の福利厚生の記事に加え、多様な性への配慮がしっかりと規定されていることが、これからの時代に非常に重要であると感じる。ハラスメントに関する事項は、現代において敏感な問題となっているため、職員研修を充実させると更に良い内容になると思う。地域貢献について、地元小学校への海洋教育の推進

や地元団体との連携など、地域貢献に非常に積極的で、地域への愛着が感じられる点が良いと思う。

「6 地域貢献」

(委員)

ボートパークを使った親水イベントという提案があり、特に子供たちが参加できる体験乗船会などの定期的開催を望む。

(委員)

地場産業としては近隣に漁業者と造船業者があり、小学校もあるので、ボートパークが地域に親しまれる施設となることを期待したい。

「7 人員体制」

(委員)

人員の確保については、繁忙期と閑散期で人数を分けて配置しなければならないのが難しいと思う。また、日々の業務に追われる中での研修の実施は厳しいと思うが、過去に実際の研修にスタッフが何人受講したのかなどの記述があれば良かった。

(委員)

決して多くは人員を配置できない中で、小型船舶操縦士やマリナー安全管理者の有資格者を配置する計画が示されているのは、提案者の強みと感じた。

「8 係留施設の維持管理」

(委員)

管理項目や点検項目が明確にまとめられており、今後起こるであろう老朽化や不具合にも的確に対処していけるのではと考える。

(委員)

日常点検とその結果によるメンテナンスの実施は、現場を管理する職員が最も詳しいため、使用できなくなる前に指定管理者側での修繕の可否を含めた報告を期待したい。

「9 利用者の安全啓発」

(委員)

ごく当たり前に行われていると思っていたボートの出港届・入港届について、昔から利用されている方は特に無頓着ということだが、事故があったときに大変な瑕疵になるので管理者として考慮すべき観点だと考える。施設の利用者を大別すると、ボートオーナー、ボートオーナーの知人・関係者、突然の訪問者に分類されると思うが、是非、出入港届を管理者が利用者に対して必ず提出してもらえるようにしてもらいたい。他のマリナーでは、船内で酒を飲んで一晩過ごした人が海に落ちて亡くなり、翌日まで誰も知らなかった事故があったので、啓発の意図も含めて市も指定管理者に指導してほしい。また、他の委員からも、ビジター向けの入港ルートを開示している点は評価できるが、出港時の届出カード

の運用については改善の余地があるという意見をいただいた。他に付け加えることはあるか。

(委員)

事故があったときに、ご本人ではなくご家族が管理者を訴える時代になってきていると感じているので、訴訟リスクの回避という目線を持っていただけたら良いと感じた。

「10 施設の利用機会の提供」

(委員)

係留率は100%だが、利用者の稼働率はどのようにとらえておられるのか。船を全然稼働させない係留者が増えるとボートパークの雰囲気が悪化するだけでなく船も老朽化するため、係留率だけでなく稼働率を一つの目安にすることでボートパーク全体の活性化に繋がると考えられる。

(委員)

稼働率の全国的な状況は職業によって利用頻度に多い少ないといった統計があることを鑑み、年に数回しか動かさないような係留者の利用を増やさないこととマリナーの賑わいも低下するので、今後気を付けていただきたい。

(委員)

体験型親水イベントの複数回の開催は非常に良いことであり、ボートパークの認知度向上に貢献していると感じる。今後もこの取組を続け、周知方法を工夫することで、さらに継続的な開催を期待したい。

(委員)

施設が係留者だけでなく地域の方々から親しまれることを願っており、特に体験イベントを通して提供される小型船舶への乗船は貴重な機会だと考える。船に乗った経験がきっかけとなり、将来船が欲しいとか、海の仕事に就きたいとか、そのようなきっかけが生まれることを期待している。

(委員)

大賛成。深浦ボートパークの近隣には漁協があるので、連携して体験漁業のような企画を考え、関係性を築いていただきたい。

「11 施設の安全対策」

(委員)

災害時の連絡網だけではなく、スタッフの対応についての具体的なフローチャートやマニュアルがあれば、より良くなると思う。

「12 本市施策への貢献」

(委員)

自主事業や本市と連携した親水イベントの実施が提案され、市民に対する参加機会も提供されており、本市の目指す海洋都市という方針に貢献する提案となっているので、ぜひ

継続していただきたい。

(委員)

浦賀駅前周辺地域の再開発プロジェクトがこれから始まる状況で、提案において協力しようとする姿勢が明記されていた点を評価したい。魅力再発見クルーズの提案は、市内に点在する歴史的観光地を巡る当市の観光施策を海上から行うものであり、とても良いと考える。

(委員)

横須賀が海洋都市ということもあり、イベントを行う際は例えば米軍基地内にはヨットクラブがあるのではないかと思うが、共同で開催するのも一案と思う。米軍は家族で住んでいる方も多く、それらの方々を巻き込めれば、歴史的な海洋都市としての横須賀の特性に合った活動になると思う。ボートパーク管理者の考え方による部分もあるが、ぜひご一考いただきたい。

「13 経費削減」

(委員)

様々な経費削減を行いながら、高い係留率を維持することが重要であり、その収益を市に還元しようとする姿勢を高く評価する。

(委員)

コロナ禍では、ボートは家族単位の移動の安全性が高いということもあり、全国のマリーナで利用者が増え、ボートパークでは係留率が上がったという話がある。現在も同じような状況が続いているマリーナもあれば、突然状況が変わったというマリーナもあり、こうした社会状況を踏まえて、マリーナやボートパークの位置づけを再考し、経費節減とどのように関連付けていくかを考えていただきたい。ボートパークでは業務として直接にイベントを実施するのは難しいと思うが、貸しボートのような取組も検討に加えてほしい。